

薬史学会通信

No.41

J S H P

2005年12月



〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 (財)学会誌刊行センター内日本薬史学会事務局
TEL (03)3817-5821 FAX (03)3817-5830 URL <http://yakushi.umin.jp/>

1. 会務報告

日本薬史学会2005(平成17)年会および臨時総会(札幌)

今年の年会は平成16年11月に設立された北海道支部と北海道薬剤師会の共催で札幌市教育文化会館で10月1日に開催された。一般講演15題、特別講演2題の学術講演が行われた。参加者128名。引き続いてウエルシティ札幌(札幌厚生年金会館)で行われた懇親会には68名が参加した。会場運営に当たられた北海道支部ならびに北海道薬剤師会の先生方に感謝する。



年会を機に昼食時に、臨時理事・評議員会を開催し、下記の事項について事務局案を報告して承認を得た後、午後の講演開始に先立って臨時総会を開き下記7項目がパワーポイントにより川瀬理事が説明して、参加者の承認を得た。いずれも、今年の創立50周年記念行事を終えてから、事業の活性化を検討を進めてきたもので、一部は既に「薬史学会通信」No.40に発表してきたが、当日、説明したことを中心として、その後の進展も合わせてお知らせする。

①機関誌、会報の充実

A. 「薬史学雑誌」は41巻よりA4判としてカラーページを導入する。今後は重厚な依頼原稿を加えていく方針である。薬史学雑誌投稿規定には変わりはなく、投稿原稿は査読後次の分野に分類して掲載する。

原報、ノート、史伝、史料、総説および雑録
投稿料は本会の規定による。

B. 「薬史学会通信」はこれまで会務報告、事業計画、集会案内、プログラムの予告など事務局よりの連絡事項の伝達を中心に新刊紹介、書評などを加えて会報として最小限の役割を果たして来たが、今後は読み応えのある会員誌として育成する(*参照)。

*「薬史学会通信」の活性化について、10月25日の事務局理事会で山川会長から「薬史レター」に改題して、内容の充実をはかる案が示されて、会員より投稿原稿を募集することとなった。学会誌「薬史学雑誌」では果たし得なかったより広範な分野の興味ある話題を取り上げて、会員誌として親しめる内容のものにして、本会の文化活動の活性化に役立てる。「薬史学雑誌」への投稿原稿の一部を査読の結果から「薬史レター」に掲載する場合もある。

②国際交流の前進

スイスに本部のあるInternational Society for the History of Pharmacy (President Professor Dr. François Ledermann) に加入の手続きを進めている。

③会員の功績表彰および研究奨励のために日本薬史学会褒賞規定を設定する。(規定文別記)

④支部活動の強化

現在は関西、北海道の2支部があるが、更に活動の拠点を増設して活動を支援する。

⑤庶務活動の強化

IT化、効率化を推進する。

⑥経済基盤の強化、会費値上げ

上記の活性化計画を実施するため、一般会員の会費を2006(平成18)年度より7,000円とする。

⑦日本薬史学会のロゴマークの決定

「薬史学会通信」No.40での公募に対して2件の応募があった。事務局会議で慎重に審査した結果、三澤美和会員提案の原図案を一部修正したものを採用した。今回の「薬史学通信」の表題に合わせ掲示した。なお、五十嵐中会員の提案は佳作とした。

II. 北海道支部だより

平成17年度支部総会は11月26日に札幌市第一ホテルで開催された。現在の支部会員数は40名。関連学会で支部会員により下記2題の研究発表が行われた。

第52回北海道薬学大会(5月22日)

北海道薬剤師会薬局部会・日本社会薬学会北海道支部合同ポスター発表(札幌市教育文化会館)

・ハマナス花含有食品の整腸効果と血中脂肪低下作用

○金澤 勉(はるにれバイオ研究所)、根布谷ふみえ、小寺 一(はるにれ薬局)、上條万二郎、船木 稔、山岸 喬(北見工大)

・幻の薬学校(その3):「北海道理科大学(薬学部)」設立の計画と頓挫

○吉沢逸雄(日本社会薬学会北海道支部)、中川 収(北海道薬大名誉教授)、佐藤一彦(小樽商工会議所)

III. 会合案内

●平成18年度日本薬史学会総会(予告)

日 時 平成18年4月15日(土)

場 所 東京大学薬学部総合研究棟講堂

総会講演 薬史学教育に関する薬科大学/薬学部へのアンケート調査結果の報告
ほか1題(演者交渉中)

懇 親 会 東京大学山上会館

●日本薬史学会2006(平成18)年会(名古屋)(予告)

日 時 平成18年11月11日(土)

場 所 名城大学薬学部(名城大学八事校舎)

年 会 長 奥田 潤 理事(名城大学薬学部)

見 学 会 11月12日(日)

内藤くすり博物館(エーザイ川島工園)、犬山城と下山順一郎博士胸像を訪ねる薬史学ツアー

連 絡 先 名城大学薬学部薬学教育開発センター教育開発部門 飯田耕太郎先生

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150

TEL:052-832-1781(内線385) FAX:052-834-8090

E-mail:iida@ccmfs.meijo-u.ac.jp

「薬史学雑誌」の投稿論文別刷製作料金の取扱いの変更

これまで投稿料と別刷製作料は本会事務局より執筆者に請求してきましたが、2005年より執筆者に対して本会事務局よりの請求は投稿料のみとなりました。別刷製作料の請求書は印刷会社が直接送付するように変更されましたので、ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

IV. 「薬史学会通信」より「薬史レター」への衣替え

「薬史学会通信」は次号からは「薬史レター」に衣替えするが、「薬史学会通信」の伝統を継承して一貫した号数を用いる(具体的には42号)

学会事務局が作成する広報的な記事と会員からの投稿原稿を収載する。

- ・「薬史レター投稿のヒント」を参照して興味ある原稿を執筆、投稿してください。
- ・原稿内容を査読の結果、修正をお願いする場合もあることをご承知ください。
- ・執筆に当たっては**著作権の侵害**にならぬようご注意ください。
- ・掲載の場合は本会の投稿規定による掲載料を負担してください。

◎学会事務局が作成して提供する記事の内容

- ・日本薬史学会の総会および年会案内：開催日時、場所およびプログラム
年会については講演申込および講演要旨の提出締め切り
- ・日本薬史学会年会の薬史に関する研究発表の紹介
- ・日本薬史学会事務局ニュース
会則など規定の通知、事務局人事等、関連学会の会合の紹介
- ・医薬史に関係する内外社会のニュース
- ・日本薬史学会事務局あるいは支部主催の座談会

◎会員の投稿原稿

薬史レター投稿のヒント

薬史に関する「短編」の事項および言葉について

薬史の古代、中世、近現代史に関する断片的な事柄や薬の言葉に関するもの

薬学教育および研究に関する話題

薬学教育に携わる人物の話題。研究に関する興味ある事項の紹介など。

医薬の「科学技術」に関するもの

製薬技術についての話題。医薬の製剤器具、調剤器材、天秤、秤量容器、蒸留機器、測定機器など。および医薬品産業における話題。医薬品産業の歴史と製薬技術史に関する話題。

医療に関する事項。「病院および薬局の職能と薬剤師業務」に関する話題。

歴史的に異色のある病院薬局および街の薬局における薬剤師の職能活動に関する話題。

医療における薬剤師の職能の変化の話題。

薬史に関する「文芸、美術」などに関するもの

文学、和歌、俳句、川柳などに出てくる医薬に関係するもの。医療に関する絵画と美術工芸品、薬草図譜、薬の容器、薬局のマーク、広告資料などに関する話題。

薬史に関連する「博物館、史料館」などの紹介

薬史に関連する史蹟および事績などの紹介または見学印象記など。

薬史の「図書」の紹介および書評

医薬に関連する図書の読後の感想などについて

上記以外の「その他」の薬史に関係するものについての紹介

日本薬史学会褒賞規程

(目 的)

第1条 日本薬史学会創立50周年経過を記念して、日本薬史学会(以下本学会という)は褒賞規程を設ける。

(表彰の種類)

第2条 褒賞は、次の二種類について行う。

- 1 日本薬史学会賞
- 2 日本薬史学会奨励賞

(表彰の趣旨)

第3条 表彰の趣旨は、次の各号に定めるとおりとする。

- 1 日本薬史学会賞は、薬史学に関する学術の進歩発展に顕著な功績をなした者に対して授与する。
- 2 日本薬史学会奨励賞は、本学会の活動において、顕著な貢献の可能性を示している者あるいは活発な研究発表を行っている者に対して授与する。

(授賞の対象者)

第4条 授賞の対象者は、本学会会員とする。

(選考方法)

第5条 受賞者の選考のため、選考委員会を設置する。

- 1 選考委員会は、次の者をもって構成する。
 - (1) 本学会会長
 - (2) 本学会理事5名
- 2 選考委員会の委員長は、会長があたる。
- 3 選考の対象になった者は、選考委員になることはできない。
- 4 受賞者は、選考委員会での選考を経て、本学会理事会で決定する。

(授 賞)

第6条 授賞は、本学会会長名で行う。

- 1 受賞者には、賞状及び副賞として金一封を贈呈する。
- 2 授賞は、原則として本学会総会時に行う。

(推薦の方法及び時期)

第7条 推薦者(自薦・他薦)は、本学会会員とし、別記推薦様式により毎年10月30日までに、日本薬史学会事務局(〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター内)宛郵便で申請するものとする。

附 則

- 1 この規程は平成17年10月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、理事会の議を経て、総会で決定する。

別 記

推薦様式

- 1 推薦書類は、A4判用紙に記載するものとする。
- 2 推薦書類は、次のとおりとする。
 - (1) 推薦書(2ページ以内で次の内容を含む)
 - A 被推薦者の氏名、所属、職名
 - B 推薦する理由(業績タイトルをつける)
 - (2) 被推薦者の履歴書(1ページ)
 - (3) 関連する業績リスト(形式不問)
 - (4) その他必要事項(資料・コピーを含む)
- 3 推薦書類の送付先：
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16
(財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局 会長 山川 浩司
TEL (03)3817-5821

日本薬史学会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は日本薬史学会 The Japanese Society for History of Pharmacy という。
第2条 本会の事務所は東京都文京区弥生2-4-16(財)学会誌刊行センター内におく。

第2章 目的及び事業

- 第3条 本会は薬学、薬業に関する歴史の調査研究を行い、薬学の進歩発達に寄与することを目的とする。
第4条 本会の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 総会。
 2. 年会(研究発表会、集談会)。
 3. 講演会、シンポジウム、セミナー、その他。
 4. 機関誌「薬史学雑誌」、及び「薬史学会通信」の発行。
「薬史学雑誌」は当分の間年2回とする。
 5. 「薬史学文庫」の管理ならびに運営
 6. 資料の収集、資料目録の作成。
 7. 薬史学教育の指導ならびに普及。
 8. 内外の関連学会との交流。
 9. その他必要と認める事業。

第3章 会員

- 第5条 本会の事業目的に賛成し、その目的の達成に協力しようとする者をもって会員とする。
第6条 本会の会員及び年額会費は次の通りとする。
- | | |
|------|-------------|
| 通常会員 | 7,000円 |
| 学生会員 | 2,000円 |
| 外国会員 | 7,000円 |
| 賛助会員 | 30,000円(一口) |
| 名誉会員 | 随 意 |
- 第7条 賛助会員は本会の目的事業に賛助し会費年額30,000円以上を納める者、または団体とする。
第8条 名誉会員は本会の発展に大きく貢献した者で会長の推薦によって選任し、総会の承認を得るものとする。その資格は終身とする。

第4章 役員

- 第9条 本会に次の役員を置く。会長1名、副会長1名、理事若干名、監事2名以内、評議員若干名。
役員任期は2ヶ年とし重任を認める。
1. 会長は総会で会員の互選によって選び、本会を代表し会務を総理する。
 2. 理事は総会で会員の互選によって選び、会長を補佐する。

3. 理事中若干名を常任理事とし、会務および緊急事項の処理ならびに経理事務を担当する。
 4. 監事及び評議員は会長の推薦による。
 5. 監事は本会の業務及び経理に関する状況を監査し、理事会・評議員会及び総会に監査結果を報告する。
 6. 評議員は理事会からの諮問事項、その他本会の運営に関する事項を審議する。
- 第10条 本会に事務担当者を置く。事務担当者は会長がこれを委嘱し、常任理事の指示を受けて日常の事務をとる。
- 第11条 本会の事業目的を達成するため別に臨時委員を委嘱することができる。

第5章 会議

- 第12条 本会の会議は総会、臨時総会、理事会および評議員会とする。
1. 総会は毎年1回開催し、会長がこれを召集する。
次の事項は総会に付議して承認を受けなければならない。
 - 1) 事業報告および収支決算
 - 2) 事業計画案および収支予算案
 - 3) その他、理事会・評議員会において必要と認めた事項
 2. 会長は必要に応じて臨時総会を招集することができる。
 3. 理事会は会長、副会長、理事および監事により構成され、会長が召集して議長となる。
 4. 総会および理事会の議事は議長を除く出席した構成員の過半数でこれを決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。
 5. 総会の議事録は議長および出席者の議事録署名人2名以上が署名捺印の上、これを保存する。
総会での議事および決議した事項は機関誌に会務報告として掲載して会員に公知する。

第6章 支部及び部会

- 第13条 本会は総会の議決により支部または部会を設けることができる。

第7章 付則

- 第14条 本会の会則を改正するには理事会・評議員会および総会で出席者の過半数以上の決議によるものとする。
- 第15条 本会の年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2005(平成17)年10月1日の臨時総会(札幌)で改訂

図書紹介

『長井長義ベルリン通信』

徳島大学薬学部、長井長義資料委員会、2005年11月刊、B5版、205頁(非売品)

長井長義は徳島から明治初期にドイツに留学し、有機化学の大家のホフマンに師事して、徳川幕府の医学所(後の東大医学部の前身)の松本良順の長男の松本銈太郎と実験台をともにして有機化学を修めた。共に日本の有機化学の基礎作りに期待されていたが、松本はドイツで病にかかり帰国後に早世した。長井は長期の留学から帰国後に東京大学医科大学薬学科と理科大学、化学の教授になり、その後、薬学会初代会頭を務めて日本の薬学と有機化学を建設した。長井については薬学会から発刊された弟子の金尾清造著「長井長義伝」があるが、ここに紹介する本は長井が渡独の旅に出るところから始まり長いドイツの留学中の身の消息を父親宛に送った漢文の書簡に、一部紛失している書簡を金尾の『長井長義伝』の漢字かなまじり文を加えて紹介している。

長井家に残されていた膨大な資料が平成16年12月に徳島大学薬学部の長井資料委員会に寄贈された。この会の顧問である徳島大学副学長の渋谷雅之氏が書簡を判読、解読し、それに詳細な注釈と図版を付した図書である。この手紙の中には実験室のスケッチの図版もあり興味深い。明治人は久米邦武「米欧回覧実記」にもあるとおり、当時の欧米の事情を詳細に見聞した記録を日本に伝えている。本書は徳島大学薬学部から発刊された非売品の本であるが、下記にお問い合わせ下さい。

(山川浩司)

問い合わせ先

〒770-8505 徳島市庄町1丁目78番地の1

徳島大学医学・歯学・薬学等総務課第三総務係長 井内 伸

電子メール isysoumu3c@jim.tokushima-u.ac.jp

